

学力向上プランに役立つ

— 自学自習力育成支援システム『みんなの学習クラブR』 —

株式会社 日本コスモトピア

上草 憲昭

梶川 満理子

e-mail : uekusa@cosmotopia.co.jp

http://www.gakukura.jp/

キーワード：小学校、中学校、ICT活用、マルチメディア、学力向上プラン、学びの連続

1. はじめに

本旨は「学力向上プラン」の実践において、ICTを活用して、学力を向上できた事例のご紹介です。

学力向上の達成には「学習習慣の定着」が重要であり、その為に「学力向上」を明確な目標として、「意識」させ、本人の「やる気」の引き出し、それを絶やさぬ「環境」の提供を実現します。結果、2年間の実践で大幅な向上を果たしました。

「環境」の中でも「学びの継続性持続」に自学自習力育成を目的とした『みんなの学習クラブR』を活用し、「バーコードリーダー（以下『BR』）」で自ら「プリント」出力を行い、又「マルチメディア解説」で自ら単元理解を行う等のメニューが貢献します。

2. 学力向上までの道のり

2.1 やる気の引き出し

- ・「補習」と言うことではなく、明解に「学力向上」を謳った事。
- ・「合宿」という集団学習を活用し、「とことん」という「環境」、全学年、全教職員で行うことで一体感の醸成を目指した事。
- ・「自ら」を「周り」を観ることで意識させる事。
- ・引出した「やる気」を絶やさぬ「環境」を用意する事。

2.2 「仕掛け」と「継続」

- ・対象は「生徒」ですが、まずは「先生」方の理解。
- ・校内研修で、『みんなの学習クラブR』の可能性について紹介。
- ・単にソフトの内容の紹介ではなく、その「運用の仕方」のバリエーションを紹介する事で、目指す姿の実現性を検証。
- ・学力向上は目標が長期であり、単にイベントとしてではなく、「学習習慣の定着」の為にどの様な「仕掛け」が必要かを共有。

しかし、初動の「動機づけ」も重要で、イベントと日常をどう連動させていくのかを徹底しましょう。

3. 何が「肝」か

3.1 「学力向上合宿」

- ・2泊3日で、初日に「とことん学習」の実施。

概ね11時間を学習に充て、各自の課題を自ら考え、その該当するプリントを解き、必要に応じて、先生に質問をする、の繰り返しを徹底的に取り組んで納得しま

す。しかし、全生徒それぞれ「個別の課題」へ取り組む際に「運用の仕組み」が重要です。

『みんなの学習クラブR』は『BR』の操作でプリント出力が可能なので、マウス操作と違って、短時間で、しかも、狙った問題を自らのプリントからダイレクトに出力できるのです。

学年別にコーナーを設けて、出力しては机に向かってをとことん繰り返します。

初日が終わった時には各自が充実感にあふれていました。2日目、3日目には「読書マラソン」や「ふるさと研究」等もあり、達成感とともに学校までウォーキングして終了しました。

3.2 「運用」こそ「肝」

「合宿」後も日常的に活用できる「環境」を用意し、生徒が自ら「プリント」を出力できる「場」を確保しました。「生徒自ら」が『BR』を持つことで、「主体性」が生まれ、「個別の課題」に「自在」に取り組む事が出来ます。

また、「プリント」以外に、「問題」にも「一問毎」に「バーコード」が付いているため、その「問題」の定着から応用まで、しっかりと理解できるまで「とことん」取り組む事が出来た事も重要でした。

「プリント」という「紙」の「メディア」は先生や

仲間等の「関わり」が持ち易く、「一緒に」考える「環境」を提供出来たのではないかと思います。

付随して、「マルチメディア解説」では、「プリント」から動画解説をP

Cで視聴でき、独りで理解出来たり、電子黒板を利用しての一斉学習にも利用可能です。

4. まとめ

単なるICTベースの「問題のデータベース」ではなく、その「運用」にマウスを使うことのない『バーコード』が効率的で、その「道具」が「自ら」という「姿勢」を引き出す「肝」になっています。

「主体性」を持った生徒は必ず伸びます。



写真1. 「学力向上合宿」様子